



森ボラ 通信

第128号 2013年1月20日発行
NPO法人 北海道森林ボランティア協会

URL <http://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F

Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrinv2002@nifty.com



新春のご挨拶

NPO法人 北海道森林ボランティア協会

理事長 横山 清



新年明けましておめでとうございます。

新年は厳寒の中に明けましたが、我が家から藻岩の山をみて濃い緑の上に綿帽子のように雪が戻って美しくも荘厳の気に打たれた朝でした。

去年は震災一年、復興元年と気のゆるせない年でしたが、着実に世情は落ち着き、お互いに元に戻ってゆく感で年の瀬を終えました。

新しい安倍政権の下に復興は国土から経済へ、経済から人心にみなぎってゆくものと思われまふ。私たち北海道森林ボランティア協会は昨年設立、10周年を迎えました。私たちの活動はテーマスクラブのボランティアとして出発し、ニトリ、アークス、セブンアイ、ローソン、コンサドーレ、北海道新聞などのボランティアの技術的サポーターとして、しっかり根を下ろし世に役立つ組織として定着するに至りました。国は林野庁の財政健全化中心の路線から、多様な森林の役割の拡大そして木材自給率50%を目指す時代へポジションを変えつつあります。私達は、これから平地に呼応しつつ、新しい年も志は高く行い着実に、そして心ゆたかな活動を展開してゆきたいと思うのです。

これまでの関係各位の御支援と御鞭撻へ心からの敬意と御礼を表し、新しい年、共に緑ゆたかな国土と人心のため努力してゆく事を誓い新年の挨拶をさせていただきます。合掌

トピックス

米国 ミネソタ州天然資源省のWEB情報です。(訳と注記は西井)

◆ 地元産広葉樹の直播じかまき[Direct seeding of native hardwood trees]

広葉樹再生への革新的アプローチ[An innovative approach to hardwood regeneration]

種を播くことによる広葉樹の成立は比較的新しい手法であり、伝統的な稚樹植栽に対していくつか利点がある。

稚樹植栽に対する利点

1. よりよくより速い成立：直播は、伝統的な植栽がエーカー（注；約0.4ha）当たり数百本なのに比べて数千の稚樹を成立させる。木々は“樹冠閉鎖”に達して芝や雑草を遮光して競合を早くなくす。典型例として、その後の芝と雑草刈りは植栽の場合8から12年かかるのに比べてほんの2年しかする必要がない。
2. 高い品質の木材：稚樹の密度が大きいと木々は隣の幹からの横競合によって一層まっすぐに育たねばならなくなる。競合によって枝打ちの必要性が減って高品質の製材丸太が生産される。

(注：この情報は林業生産用です)

3. 自然淘汰がうまく使える：大量の種と樹種のために、その地域に最もよく合った木々が優勢となる。

4. 林地条件の変化に対してうまく適合：稚樹植栽では細かい林地条件の変化に合った計画ができない。直播ではそれぞれの場所において最適の樹種標本が引き継げる。

(注；例えば小さな林地でも谷筋にヤチダモ尾根筋にはサクラ等の適地適木)

5. より一層自然な外観：直播は列状植栽よりももっと母なる自然な広葉樹成立に近似の方法である。

6. 動物食害に耐える高い能力：シカなどの動物は、それでも芽を食べることから損害を引き起こす原因にはなっているが、面積当たりの生える本数が多いことから伝統的な植栽林地よりも直播の方が荒れてしまうことが多分少ない。

直播きの潜在的な不利点や問題

1. 初期費用が高い：種による成立は苗木植栽より幾らか高い(平均\$500/エーカー対\$350/エーカー)(注；ha当たり植栽は¥106,000 直播は¥74,000)。忘れてはいけないことはしかし費用の高い分は政府の費用分担補助金や自分自身での種集めや自分で耕やすことで相殺できることである。その後の維持費用は2から3年に圧縮されるので合計としては樹冠閉鎖が早いので苗木植栽よりすこし安くなりそうである。

2. 種の入手が不定期なこと：レッドオークのような種を付けるのが不定期な木の種は、毎年は手に入らないかもしれない。ナラ類などの樹種では数年は補植のため苗木植栽するか直播を遅らせることが必要になるかもしれない。

3. 林地への近づき易さ：直播には地拵え機械が立ち入る必要があるので急峻な林地やすでに木が生えている林地の成立には使えない。このような林地の再生方法としては苗木の植栽を続ける必要がある。(「直播の方法」等は次号に掲載します。)(文・酒井)

■ 活動報告

◆活動報告 2013年1月10日 澄川 参加者12名

活動出初め式



昨年は10周年を迎えて式典もあり忙しい年でしたが2013年は協会に取って新しい次の10年に向けての出発です。今日の澄川は予報とは違って澄んだ空で出初めの活動を行いました。まずゲートの除雪からテントの掘り出し小屋の雪かきキャリコの掘り出しをしました。

古い小屋は屋根がつぶれかかっているほかはすべて今年の記録的な積雪寒波に耐えていました。

昼からは上流中流下流木道、キャリコ木道の除雪をしました。スノーシューを履いた会員の足取りもまだまだ健在です。

今年一年安全な作業が続きますように心からお祈りいたします。(文・酒井)

◆12月セミナー

「支笏湖周辺風倒被害における更新状況と今後の課題」 12月20日

胆振東部森林管理署 森林育成係 菅田健太郎 係長

今期最初のセミナーは、我々が最も関心ある支笏湖周辺の風倒被害の復興状況について調査された菅田氏を講師にお迎えしました。(参加者26名)

平成16年(2004年)の台風18号による森林の風倒被害は全道に及び、その内の約1/4が支笏湖周辺の森林が被っている。その後、「多様な樹種・樹冠層により形成される森林」を目標に「風害を受けにくい森林」の施業が実施された。この度は被害発生から6年経過し、更新状況が目指すべき森林へ成長しているか検証されたものである。

被害地を、全面植栽している「密植タイプ」(2,500~3,000本/ha)、植栽ブロックと天然更新ブロックをモザイク状に配置した「疎植タイプ」(1,000~1,500本/ha)、風倒木処理を終えたが地拵・植栽をしていない「未施業箇所」に分け、その植生を「ブラウン・ブランケ法^④」で調査・分析している。

その結果、調査全域の草本層では圧倒的にウラジロエゾイチゴが優勢でその繁茂状況が天然更新に大きな影響を与え、被度が高い所では被圧により有用稚幼樹の発生は全くないことが判った。

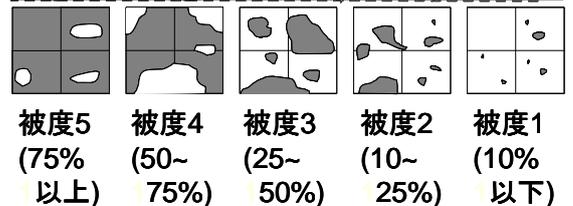
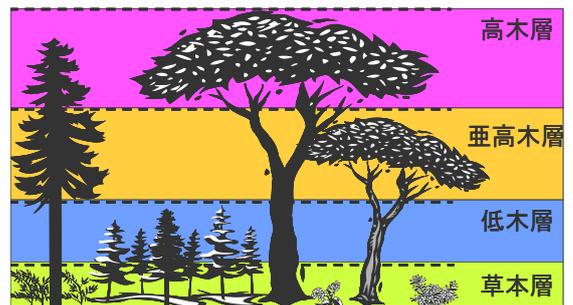
「密植タイプ」の更新状況はシラカバ、アカエゾマツの植栽木が順調に成長しており、針広混合林への成林が見込まれ、残し幅を含め多数の樹冠層が形成されると期待される。課題としては、更に良い林分へ成長させるために枝張りや根張りの発達を促す保育間伐などの密度管理が必要になる。

「疎植タイプ」の更新状況は、植栽列に天然更新が多く確認され、列単位でアカエゾマツを主体とした針広混合林化が期待できる。また、天然更新列においても時間はかかるが、現在優勢であるウラジロエゾイチ

ゴは先駆樹種のカバ類の成長により衰退し、前生樹種の耐陰性の強いトドマツ等が成長し針広混合林へと移行するなど、時差更新による複数の樹冠層の形成が期待される。課題としては更新状況によっては人為的な更新作業が必要になる。両タイプとも目標の「多様な樹種・樹冠層により形成される森林」への移行が期待できた。

また、「未施業箇所」は、ウラジロエゾイチゴの被度によって更新方法が異なり、従来の植栽更新、地がき・刈出し処理による天然更新、現状のままでも更新可能と3パターンの更新方法に分けることができる。それを実施するにはより詳細な調査と細分化した作業、複雑な実行管理など課題も多いが、前向きに取組んでいきたいと報告された。

今回の調査報告は、数十年単位をタームとする森林施業の中で、災害後数年の復興中の調査報告ではありますが、従来の植樹一辺倒の施業から脱却し、自然にやさしい、自然の復元力を信じ人為的な作業を少なくした施業への転換の切っ掛けとな



(注)ブラウン・ブランケ法:環境調査などで森林に対して行う方法で、森林を「高木層」、「亜高木層」、「低木層」、「草本層」、「コケ層」(一般的に省略される)に区別し、各層ごとに植生組成、被度・群度など調査・分析する方法。

ることを期待しております。

菅田氏には年末のお忙しい折、興味深いご講演をいただき有難うございました。（文・和田）

■ 今月の幹事会

出席者：市山・大窪・荻田・樫棒・酒井・佐野・高野・津金・釣井・西野^(傍)・矢澤・和田

審議および決定事項

1. 新年度を迎えて・・・

酒井代表から11年目の節目の年に協会の生きる方向を模索し、これからの10年の設計をして欲しい。

2. 25年2月、3月スケジュール・・・幹事会2月8日（金）

3. 北海道CGCの森活着調査の検証・・・

活着率の悪いのは

①苗の状態

②食害

③天候等状況に影響されるがデータ不足は否めない。

烏柵舞の森ではデータ整備をして対応して行く。

4. この冬の澄川での間伐計画・・・

小屋増築のために責任者に矢澤、樫棒。木道の敷板はシラカバ材40枚製材（40×20×400）ホダ木シイタケ用100本、ナメコ100本（4月植菌予定）。

5. 種子の年間採取計画・・・

ハルニレ、エゾヤマザクラ、ケヤマハンノキ、イタヤカエデ、キハダ、ミズナラ、ホオノキの種子採取計画を検討。

6. 澄川環境林区分け・・・

A-1～4・B-1～8・C-1～5・D-1～8の4区画25小班に区分け。

7. 委員会報告

広報委員会・・・新規加入者の対応。

業務委員会・・・25年度年間計画の検討。

助成委員会・・・森と緑の会助成、有明の森の活動を助成対象で検討。

研修・企画委員会・・・九州大学演習林（足寄町）・メイン幹事に矢澤さん。

8. その他

・パソコン教室（西野講師）参加者6名・・・1月15日から実施。

・メイプルシロップづくり・・・2月の幹事会で具体的に決める。

■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加数	活動内容
12月20日（木）	リンケージプラザ	26	例会・セミナー 菅田健太郎氏（胆振東部森林管理署）
1月8日（火）	ラルズビル	12	定例幹事会
1月10日（木）	澄川	12	仕事始め
1月16日（水）	澄川	8	林内整備・間伐